

第6章 計画の達成状況の評価と見直し

6.1 P D C A サイクルの構築

事業の推進にあたっては、目標の達成度を評価（Check）し、小松島市地域公共交通活性化協議会に審議を諮りながら、事業継続の判断やニーズに応じた改善（Action）を行い、関係者の共通理解のもとで、実施主体が中心となって計画（Plan）、実施（Do）へと、P D C A サイクルを行いながら推進していくものとします。

6.2 計画全体としての数値目標

計画全体の達成状況を定量的・客観的に評価するため、以下の指標に基づき計画全体の達成度を評価します。

■自家用車からバス利用への転換を促進

数値目標

- ・1日当たり延べ1,800人の利用を目指す。
→1日当たりの徳島バス路線における市内バス停留所利用者数
624人/日 → 1,000人/日
(平成28年度) (平成33年度)
- 1日当たりの移譲路線における利用者数
441人/日 → 800人/日
(平成28年度) (平成33年度)

■バスを便利と感じる人の割合が増える。

数値目標

- ・アンケートにおけるバスの総合満足度で「高い」「やや高い」の割合
8.9% → 17.8%
(平成28年度) (平成33年度)

■公共交通アクセシビリティ水準値の向上

数値目標

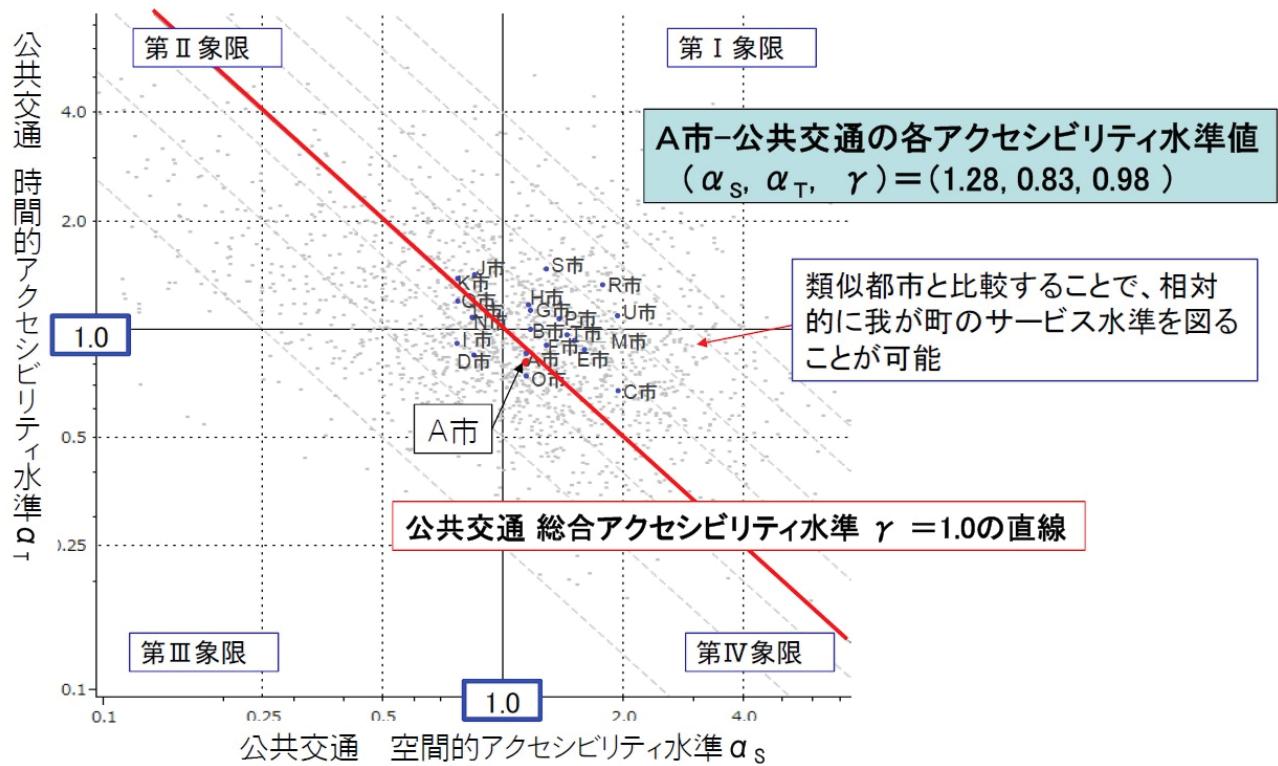
- ・公共交通アクセシビリティ（公共交通がどれくらい利用しやすいかを相対的に表した指標）の水準値の向上
0.98 → 1.10
(平成28年度) (平成33年度)

※公共交通アクセシビリティ水準値とは

公共交通のサービス水準を見る化し、全国の市町村を一元的に比較できるように国土交通省が公表している指標です。

時間的アクセシビリティ指標と空間的アクセシビリティ指標を組み合わせた総合アクセシビリティ指標により評価します。

- ・時間的アクセシビリティ指標：公共交通の乗り場（鉄道駅・バス停）においてどのくらい利用しやすいかを示す指標（運行本数が多いほど高い数値となる）
- ・空間的アクセシビリティ指標：公共交通の路線（鉄道駅・バス停）が近くにあるかを表す指標（路線長が長いほど高い数値となる）



資料：国土交通省研修資料

公共交通アクセシビリティ水準値

6.3 評価のスケジュールと各施策の事業評価

計画期間におけるP D C Aサイクルは、以下のスケジュールで実施します。

各事業・施策の軽微な改善は、必要に応じて適宜実施します。また、抜本的な改善を視野に入れた事業・施策の見直しは、評価実施後に行います。

なお、計画の評価は、詳細な利用者数調査や利用者・市民に対するアンケートによる満足度調査等を踏まえた上で実施します。

評価スケジュールと評価項目

目標	施策	評価の項目	指標数値
1.市民の移動ニーズに対する運行水準の適正化	①ダイヤの合理化	○市民アンケートによる「運行の時間帯」における満足度調査で、満足度が「高い」「やや高い」と答えた方の割合	今回の調査 3.7% → 中間年度(平成31年度)調査 7.4% → 計画最終年度(平成33年度)調査 10%
		○市民アンケートによる「運行の本数(運行頻度)」における満足度調査で、満足度が「高い」「やや高い」と答えた方の割合	今回の調査 36.7% → 中間年度(平成31年度)調査 40% → 計画最終年度(平成33年度)調査 45%
	②わかりやすさ向上のためのダイヤ・ルートの改善	○市民アンケートによる「運行の定時性」における満足度調査で、満足度が「高い」「やや高い」と答えた方の割合	今回の調査 11.1% → 中間年度(平成31年度)調査 20% → 計画最終年度(平成33年度)調査 25%
2.利用案内の充実	③車両やバス停の表示の改善	○行先別ナンバリングをした小松島市内を走るバス車両の割合	現状 68%(8台が未設置) → 中間年度(平成31年度)84% (4台分設置) → 計画最終年度(平成33年度)100%
		○バス停における正縮尺の案内図の設置数	現状0%(市内82のバス停での設置数0箇所) → 中間年度(平成31年度)25%(20箇所での設置) → 計画最終年度(平成33年度)50%(41箇所での設置)
	④わかりやすい時刻表・バスマップ発行と案内強化	○市民アンケートによる「運行時刻・路線図等のわかりやすさ」における満足度調査で、満足度が「高い」「やや高い」と答えた方の割合	今回の調査 8.9% → 中間年度(平成31年度)調査 20% → 計画最終年度(平成33年度)調査 25%
	⑤ICTの活用などによる情報提供の充実	○大画面によるバスロケーションシステム表示の設置箇所数	現状 0箇所 → 中間年度(平成31年度) 2箇所 → 計画最終年度(平成33年度) 4箇所
3.誰もが使いやすい設備の充実	⑥バリアフリー化の推進	○市内を走る路線バス車両のノンステップバスの割合	現状 61.5% → 中間年度(平成31年度) 76% (3台増備) → 計画最終年度(平成33年度) 88% (さらに3台増備)
	⑦バス停の改善	○市民アンケートによる「バス停留所の設備」における満足度調査で、満足度が「高い」「やや高い」と答えた方の割合	今回の調査 6.2% → 中間年度(平成31年度)調査 9.3% → 計画最終年度(平成33年度)調査 12.4%

目標	施策	評価の項目	指標数値
3.誰もが使いやすい設備の充実 (つづき)	⑦バス停の改善 (つづき)	○アドプト*により、管理していただくバス停の数 * :「アドプト (Adopt)」とは、英語で「〇〇を養子にする」の意味。一定の公共の場所を養子にみたて、市民がわが子のように愛情をもって清掃美化を行い、行政がこれを支援する制度。	現状0 → 中間年度(31年度) 5箇所 → 計画最終年度(平成33年度)調査 10箇所
4.交通結節点の充実	⑤ICTの活用などによる情報提供の充実 ⑧幹線・フィーダーの明確化と乗継利便性の向上	目標「2.利用案内の充実」欄 参照 ○市民アンケートによる「バスと他のバスとの乗継の容易さ」における満足度調査で、満足度が「高い」「やや高い」と答えた方の割合 ○市民アンケートによる「鉄道と他のバスとの乗継の容易さ」における満足度調査で、満足度が「高い」「やや高い」と答えた方の割合 ○南小松島駅前バス停に乗り入れるバスの本数の割合 ○日赤病院玄関前に乗り入れるバスの本数の割合	今回の調査 3.7% → 中間年度(平成31年度)調査 7.4% → 計画最終年度(平成33年度)調査 10% 今回の調査 5.9% → 中間年度(平成31年度)調査 10% → 計画最終年度(平成33年度)調査 15% 現状 上り 10.1% 下り 23.1% → 中間年度(平成31年度) 上り 73% 下り 81.5% → 計画最終年度(平成33年度) 上り 84.1% 下り 95.4% 現状 上り 43.5% 下り 41.5% → 中間年度(平成31年度) 上り 100% 下り 100%
5.多様な交通手段の連携	①ダイヤの合理化 ⑨自家用車等との連携 ⑩高速道路延伸を利用した新たな公共交通網	目標「1.市民の移動ニーズに対する運行水準の適正化」欄 参照 ○公共交通空白地域を含む地域を対象とした、地域に応じた公共交通サービスの提供方法に関する意見交換会の開催地域数 ○高速バスのバス停に接続する路線バス本数の割合	現状 0 → 計画最終年度(平成33年度) 4箇所 現状 上り 7.2% 下り 7.5% → 計画最終年度(平成33年度) 上り 20% 下り 20%
6.住民による自発的な利用促進	⑪利用促進運動の展開	○各小学校におけるバスの乗り方教室の開催 ○市民アンケートにおける通勤・通学で路線バス・鉄道を利用すると答えた方の割合	現状 0 → 計画最終年度(平成33年度)までに市内の全小学校で1回ずつ実施。 今回の調査 34.4% → 中間年度(平成31年度)調査 43% → 計画最終年度(平成33年度)調査 50%

6.4 計画の推進体制と進捗管理

計画の推進と進捗管理は小松島市地域公共交通活性化協議会において行います。

各事業の推進にあたっては、その実施主体が役割に応じて連携し、責任をもって協働しながら行いますが、市は各種施策の実施に当たり、関係者との協議・調整を行っていくこととします。

また、各事業の進捗管理はP D C Aサイクルと評価スケジュールに基づき行います。

